

<球磨村（渡）／住民>

日 時：令和2年10月23日（金）15時30分～17時00分

会 場：球磨村総合運動公園

参加者：16名

【発言者①】

村議の〇〇でございます。

千年に一度といわれる災害が予測されておりましたけれども、これが現実のものになってしまいました。

千年に一度というスパンのなかで、それを経験することは、本当に現状であるのかという、そういう思いがあったんですけれども、現実にはそれが起こってしまったというのが今回の7月の豪雨だというふうに思います。

球磨村はご存知のとおり、渡地区で球磨盆地があって、そしてその下流域は、山が迫る球磨川沿線であります。また、それにそそぐ支流、それに急峻な山間の中に点在する集落がございます。

こういった地形を考えたときに、今回の豪雨、とりわけ雨の降り方、3日の9時から4日の9時まで、およそ約12時間、この線状降水帯、幅も長さも全て芦北地域から球磨盆地をすっぽり囲むような、そういった線状降水帯が居座って、これだけ多くの被害が出ました。

私は、このことに最も注視をしたいというふうに思います。

千年に一度と言いながらも、明日、また明後日、本当に近い将来に再度こういった現象が起こることを十分に認識する必要があるんだというふうに思います。

今、私が考えます治水の一つでございますが、この起きました現実、事実をしっかりと自らの根本的な基礎とするべきだというふうに思います。当然ですけども、このことからしか先には進めない。現実をしっかりと受け止めることは大事だというふうに思います。

そういう意味では、先ほど申し上げたように、12時間もの間、長い降水帯が迫った。このことが千年に一度と言いながらも、明日、明後日また起きる可能性があるということをしっかりしていかなければならんだろうというふうに思います。

1ページの今回の豪雨の降った地域が、40年、57年、令和2年というふうに記されております。

球磨川水系、ほぼそこに入っております。しかし、川辺川水系、こちらはどちらかというと少し離れたのか、これが、まず球磨川水系、川辺川水系が全て

同じような濃い色になってしまうと、市房ダムと川辺川ダムをもし作った場合に、その機能が果たしてできるのか、両ダムがしっかりと連携を取って治水のための効果がしっかりできるのか、このことを考えますと、私はこれまで取り組まれてきましたダムによらない治水対策の取り組みを、最大限まで掘り下げて取り組む必要があるだろうというふうに思います。

とりわけ今回浸水をした住家の皆さん方の安心、安全を確保する意味では、高台移転ないしは、住家を建てる場合には、高層階の家をぜひ提供できるだけのことを、自治体としては取り組むべきだろうというふうに考えております。まずは、そのことを始めることが大事だろうというふうに思っています。以上です。

【発言者②】

球磨村村議会〇〇と球磨村商工会の〇〇をやらせていただいています。〇〇といたします。

できますればこの資料の4ページをお開きいただければと思います。

私、このページの1と2の地区、渡の茶屋地区というところに生まれ育って69年生活をしてまいりました。

その間、昭和40年、57年と、多くの水害を経験しております。本当に今回の水害は予想外の水害でありまして、朝4時ぐらいにはもう庭に来ておりまして、それから濁流に追われながら避難をしたわけであります。今、この2番の上のほうに国道があるんですけれども、そこに避難をしておりまして、濁流を見ておりますと、この地区の28戸のうち25戸が被災をしまして、14戸の家が流されてしまいました。

幸いにも人的被害はなかったからよかったわけでありましてけれども、本当にこの球磨村は地形的に考えてみても、この球磨川第2鉄橋の下流を考えましたときに、川幅を広げることもしない。川底を掘り下げることもしない。本当に岩盤が張っているわけでありまして、そういったことから鑑みたときに人吉地区とか、そういった上流の浸水範囲を見たときに、その浸水範囲域を遊水地と考えたとき、これだけの遊水地を利用しても球磨村の水害は全部防げないということであろうと思うんです。

そういったことを私も考えてみたときに、この茶屋地区1、2ですけれども、こういったところにも危険区域の指定をしていただいて、言い換えれば集団移転を促すとか、そういったことも必要ではないかなと思っております。

やはり私も何回となく水害を経験しておりますけれども、本当に水位があがるスピードが早くて、逃げるのがやっとというような状況であります。

その隣の島田地区では、私は2階におりますとっておられた方が、もう腰

の曲がった奥さんですけれども、本当に旦那さんはもうダメだろうと言っておられましたけれども、水は引きまして、今日来ておられますけれども、〇〇さんが2階にあがられたら、天井を打ち破って、座っておられて、下までおんぶして来られて、私もたまたまそこにおりましたので、私の軽トラックに乗せて避難所に行ったんですが、ただ一言、怖かったと言われました。顔も本当に泥まみれでありました。

そして、また、その元の位置に来ましたところ自衛隊のほうから、車を提供してくださいというようなことでありましたので、何かなと思ってましたら、その親戚の方が、やはりこれも〇〇さんが発見されまして、硬直状態で、本当にかわいそうでありますけれども、自衛隊の方が私の軽トラの荷台に乗せまして、千寿園のほうに運んだんですけれども、そして玄関のところに置かれますので、かわいそうじゃないですかと、言いましたところ、それではロビーのほうにというところに入りましてところ、本当に入らんでよかったかなという思いもしました。14名の方が車椅子に座って、顔はきれいに拭いていただいて、タオルを被せてありました。14名の方ですよ。

その〇〇さんという方ですけれども、この私がお運びしたご遺体に向かって、顔を拭いて、「なんであんたこぎゃん早く逝くとね」、本当にこういった悲惨な体験はもうしたくありません。

そういったところで私の考えとすれば、ダムを含む治水対策、今まで遊水地とか何かやってきても、こういう被害が出るわけありますから、どうしてもいろんな、ダムを含んだ、どういうダムが予定されているのかわかりませんが、観光にも役立つような、安全面でも役立つような、多目的というんですかね。そういったダムを含んだ治水対策をやっていくべきではなかろうかと思えます。こういった意見、私も〇〇をしておりますけれども、あくまでも個人の意見として捉えていただければと思っております。

本当に、もう嫌なんです。こういった災害で嫌な思い、嫌な思いというべきかわかりません。本当に私の息子も消防団に入っております、千寿園に行ったときには、「もう、(聞き取れず)流れて来らしたつばい」というわけですよ。なぜかあの息子も何回となく、そういう今回の災害では人様の命に携わるような環境に置かれて、本当に精神的に大丈夫かなと思った次第です。これからは本当に隠された部分があるかなと私は思うんです。

こういった災害で、精神的に病んでおられる方が、おられるんじゃないかと、自ら自分の命を絶つ人が一人でもおれば、こういった対策の意味もなくなっていくんじゃないかなと私は思います。

本当に国、県は素晴らしい施策を掲げていただいております。私も〇〇として、新持続化補助金とか、なりわい補助金とかをしていただいております。本

当に感謝をしますけれども、その持続化補助金も、もう来年の1月で締め切りなんです。なりわい補助金も一緒です。結局はあっても使えないなら、無いのと一緒なんです。

やはり、私も建築業をしておりまして、前のときにはグループ補助金だったと思うんですが、それは被災した建物、保険が下りてても撤去はできたんです。今度は保険が下りていれば保険分引きますよというようなシステムですから、使いたくても使えない。かといって私も作業場も作りたい。道具も買いたい。何百万、一千万近い道具になるわけですけども、そういった持続化補助金を利用したとしても、なりわい補助金を利用したとしても、今度は置くところがないわけです。

本当に絵に描いた餅になってしまうわけです。せっかくの国、県の施策といえますか。素晴らしい施策も死んでしまうわけでありますので、こういったことも、締め切りを来年、再来年と、使えるような補助金にしていただければと願っております。以上です。

【発言者③】

村議の〇〇です。よろしく願いいたします。

資料いただきました。16ページの写真をちょっと見ていただきたいと思います。これは堤防の写真でございます。これは昭和40年、昭和57年の過去の大水害によって、この年代の写真の堤防ができました。

それで今回の水害によっては、約1.8m、2mというものを越えてきましたので、今後堤防をお願いするには、やはりこの2mほどの堤防が必要ではないかというふうに思います。

それからもう一点でございますが、球磨村というところは、地形的に見ましてほとんど山間部でございます、平地がございません。それで、県のほうにお願いをいたしまして、高台辺りにそういう平地の造成をぜひともやっていただきたいと思います。以上です。

【発言者④】

私、3区の〇〇と申します。よろしく願いいたします。

私の話は違った視点になるかとも思いますが、少し意見を述べさせていただきます。

7月4日の当日、朝、異常な雨ということで、ちょっと地域を見て回りました。

球磨川の堤防を歩きましたが、あと2、30cmのところ、もう球磨川が超えてくるなというところを見届けて、自分たちも危ないということで引き返

そうとしたところ、内水氾濫のほうが早かったです。

内水氾濫は小川です。千寿園のそばを流れている小川、あそこから一気に溢れてきまして、帰るに帰れない状況で、ずっと迂回をしまして、山口地区のほうからずっとまた戻ったところに、なんとか帰り着いた状況だったんですけれども、その後ももちろん球磨川が堤防を越えてきましたけれども、非常に印象深かったのは内水氾濫のほうが早かったというのが印象深かったということです。

先ほど線状降水帯の話ありましたけれども、もう十何時間にもわたって、ずっと居続ける、球磨川に居続けてるという、そういった異常な気象が今後あるのかなのか、あるんだったら、いずれあるのかというのは全くわかりませんが、一つお願いしたいのは、いろんなダムがあるかないか、オール・オア・ナッシングの議論が先行してしまっていて、ちょっとそれがどうしても少し疑問に思うところがあります。

もちろん最終的に決めなければいけないとは思いますが、その前にいろんな検証をして、いろんな方面からいろんな人の話を聞いたり、例えば瀬戸石ダムに流木が詰まって、水が逆流して、神瀬地区のほうに流れ出たという話もありますし、例えば山江村の山林の荒廃で、森林が治水能力はあるんだけどそれがすごく衰えていて、いろんな意味で水を保つ力が弱まっているのではないとか、そういったことも言われてますし、私たちが今話しているのは、今現在の危機ということでもそうなんですけれども、やはり子どもとか孫の世代の話をしているんです。

50年先の皆さん、というか私も含めて生きてる方は少ないかもしれません。そういった話を今しているんですね。

ですから、ダムということだと、すぐ賛成派と反対派に分かれて、五木がそうですけれども、五木でも7割の人がいなくなったんです。ダムの話が持ち上がって、ダムを容認して、その後、みんながいなくなってしまったと。今観光で少し盛り上げてきてますけれども、そういったことも見ながら賛成と反対に分かれて、親戚が、地域が分断されて、翻弄されて、そういった歴史というのがあるということも一つ押さえておかなきゃいけないという具合に思います。

私は、ダムは必ずしも賛成ではありません。

それはいろんな意味で、科学的な知見というのは素人ですからありませんけれども、やはり先ほど言ったようなことを総合的に勘案して、地域のこと、それから環境のこと、川辺川の清流のこと、球磨川の清流のこと、そういったことも全て勘案して、それから地域の主人公である住んでらっしゃる方、そういう方々の意見を丁寧にくみ取ったうえで、総合的にやっぱり判断していただきたい。

ですからこの1～2年で、すぐもう先行して決めてしまうというのはやはり少し疑問に思います。ハード面というのも重要かもしれませんが、やはりソフト面のほうで私たちの意識を変えらるということ、やはり当日の朝見回ったときにほとんどの方が家にいらっしゃいました。

なんで逃げないんだらうと私たちは話しながら、歩いたんですけれども、もうほとんどの方が水があがってきてどうしようもないときになって、財布と携帯だけを持って逃げられたというのが非常に多かったというように思います。

残念ながら亡くなられた方もいらっしゃったんですけれども、そういったソフト面で防災意識を高めるだとか、そういったことも同時並行でやっていかなければいけないという具合に思います。

そういったことで私が言いたいのは、作るか作らないかとか、そういった問題だけではなくて、いろんな方向から皆さんの知見を併せて、検討していただいて、何回も何回も意見を汲み取ってやっていければいいなというふうに思います。ありがとうございました。

【発言者⑤】

〇〇です。今回の7月4日の豪雨は、見たこともない光景でございました。

今回は早急な復興を急いでいただき、そして球磨村はメインのところは全部浸かっておりますので、どうか高台の造成を急いでいただきますようお願いいたします。以上です。

【発言者⑥】

6区の〇〇です。私の地域は、5ページになります、一勝地地区の中園という集落になります。

では、紙に書いてきましたので、読み上げさせていただきたいと思います。

今回、災害において被災された方が大変な思いをされている中で、意見を述べることは大変失礼なことと存じますが、今回、経験した思いを述べさせていただきます。

私どもの中園地区は、国道219号線の道路沿いの家屋が浸水して被害を受けました。

過去にも、増水をして国道沿いの家屋は流失したと聞いております。また今回も一軒の家屋が堤防を越えて流失をいたしました。

河川改修に伴い、堤防は築堤されて安全度は増したと思っておりましたけれども、今回は想定外の雨量で堤防を越えてしまいました。

浸水した家屋の持ち主からお聞きしたことは、堤防築堤の用地交渉にいられた係官から、これで安全との説明があり、承知したと聞いており、残念であり

ます。

しかしながら築堤後、雨量時期には内水が発生して、数回となく消防ポンプ等で排水作業を行って対応して参りました。

今回の災害も堤防を越えないものと思い込み、地区住民の水害対応が遅れた部分があったと思っております。反省しております。

これからの対策は、想定以上の災害に耐え得る方策を練っていただくようお願いしたいと思っております。

また、先ほど〇〇さんも述べられましたように、ぜひ住民が納得するような数値とかデータをお示しいただいて、いろいろな方策が万全にできますようお願いいたします。

また、余談ではありますが、雨を降らせる実験は行われておりますけれども、叶えれば大量の雨を排除するような科学の力があればなと期待するものであります。以上です。

【発言者⑦】

私はPTAの〇〇です。よろしく申し上げます。

私は治水対策というのは大事かとは思いますが、まずは被災された方の生活再建と道路や橋の復旧、また学校再建等とインフラの整備は最優先にすべきかなと思っております。

生活再建では、安心安全に生活できる場所の確保、球磨村の土地柄からして山ばかりですので、思い切って山を切り開いて、代替地を整備して、そこに住宅地だったり福祉施設、学校を作って、新しいまちづくりをするしかないと思っております。

あと道路や橋の復旧に関しましては、ただいま復旧をしていただいて、被害を受けたところは復旧をしていただいておりますけれども、私が最も重要と考えてるのは、被害を受けてない道路がありますけれども、特に渡の栗林地区というところから運動公園の入り口までの国道です。ここが寸断されたら球磨村は孤立するんです。球磨村全体が。

ということで、新しい道路を作って、安全な場所に新しい道路を作ってほしいというのはあるんですけれども、すぐ簡単にできる問題ではないので、まずは先ほど言いました区間の安全確認の調査をしていただきたいなと思っております。

それと渡小学校の再建についてです。渡小学校も昨年の8月から10月にかけて大規模改修をして、きれいになったばかりでした。1年も経たないうちに被害にあって、壊滅的な被害を受けて、今子どもたちは一勝地小学校のほうに通っているんですけれども、現在の場所に再建というのは難しいと思っております。

学校をです。ですので、高台に再建していただくことが望ましいのかなと思っております。

渡小学校の再建も球磨村の復興計画と一緒に考えていただきまして、やはりできるだけ早く、方向性を示していただきたいなと思っております。

最後に、渡小学校がこのままなくならないように、ぜひ再建をしていただきますようお願いをいたしたいと思っております。以上です。

【発言者⑧】

消防団の〇〇をしております。

1、2、3分団を管轄しております〇〇といたします。よろしく申し上げます。

まず、7月4日の豪雨のときには、私どもの地元首長と同じ集落なんですけど、4ページの1、2、まさに激甚災害みたいなところの地区です。相良橋、倒壊しましたけれども、そのたもとで40年はまだちょっと赤ちゃんでした。57年も経験しております。その間にも何回も水害を経験しているところなんですけど、まず57年の災害で降水量ということで印をしてありましたけれども、私が避難するときには、もちろん、うちにも高齢者がいるわけなんですけれども、6人住まいですが、来ても57年よりも上がらんものと思いながら避難をしたわけですが、それよりも6メートルも7メートルも上に来て、屋根も見えんような状態だったわけです。うちの前にある木造の家屋は、8棟から9棟ぐらい流れていきました。

もちろん〇〇さんが言われましたように、犠牲者はいなかったわけなんですけど、洪水に慣れた地区なもんですから、ここまできたらもう避難するぞということで、皆さん避難して助かったわけなんですけれども、とにかく皆さんが言われますように想像を超える雨量、それから洪水の量だったんですけど、私は〇〇をしておりますので、当然団員も心配でしたが、結局はライフラインといいますか、通信が全然途絶えてしまって、うちが管轄している千寿園の近くの分団は2分団といたしますけど、その分団でも団員、部長以下5、6名ぐらいの対応で、千寿園のほうも、それから地域住民の避難誘導あたりをやってたわけなんですけど、とにかく通信が途絶えたことでだいぶ不安に思いました。

それから本部、役場との連絡も途絶えてしまって、全然携帯もつながらない状態で、そういうのがやっぱりかなり心配でございました。

2日、3日経つうちに、各分団のほうから各地区で地域住民の皆さん方の避難誘導等はやっているということを知って、安心したわけなんですけれども、とにかく道が、何度も言われますように、とにかく山間部が多いですので、孤立地区がほとんどだったもんで、もちろん自衛隊さんあたりのヘリを使った避難誘導で速やかにやったわけなんですけれども、どうやったら道が安心して通られ

るようにできるのかなと、そこを早めの道やラインあたりの確保をしてもらいたいと思います。

それから先ほど言いました、この浸水地域、球磨川にかかる橋梁がだいぶ崩壊しております。ここに書いてありますように、相良橋とか、あるいはこの上流にあります沖鶴橋、あの辺が早く仮橋でもいいから、早めに復興されると三ヶ浦地区に住まわれる方などが通勤とか、いろんなのができるんじゃないかと思います。とにかく時間がかかるということでございましたので、そこら辺ですね。

あと、浸水した地域、早めの移転なり嵩上げなりを早急に行ってもらいたいと思いました。以上です。

【発言者⑨】

皆様こんにちは。元区長会の〇〇を拝命していました、〇〇と申します。よろしく願いいたします。

今日はテーマが、復旧・復興、治水のテーマでありましたので、それに沿いまして、3点ほどのご要望とお尋ねなりをお話しさせていただきたいと思いません。

まず、復旧・復興に関しまして、私どもの球磨村の住民は常にクエスチョンを投げかけるんですけれども、スピーディーなアンサーがございません。

例えば情報の提供が一番なんですけれども、今、皆さんおっしゃっておられます、復興のために建てていただきましたお家がたくさん出揃っておりますけれども、進んではおります。ところが2年後になったら、またさよならしませんといけません。その時に、どこに自分たちが住めるお家を作っていただくのか何度も皆さんおっしゃってますけれども、高台の造成をお願いいたしまして、速やかな、安心して仲良く家族共々に暮らせる家並みを作れる広がりをもった代替地の確保を速やかにお願いいたしたいと思いません。

その次に2点目が、治水対策のこともここに載ってますけれども、ご存知ではないと思いません。球磨村というのは、上からいきますと、馬氷川、小川郷、千寿園がほとんど壊滅的な被害を受けましたのも、小川郷というのが、もう生まれてこのかた見たことがないような有様でありました。

木が立ったまま流れてきました。「ああ、これは千寿園危ないな」。もう目の前が千寿園なんですけれども届きません。道は崩壊しております、歩くのがやっとの村道です。ですので、村道が1本しかありませんので、もうそれが本当に、悲しいくらい目の前で皆さんがやられていくのをじっと見ているしかありませんでした。ですので、今も言いましたように、村道、いわゆる人が歩けるくらいの道でもよろしいんですけれども、できれば軽トラが通れるような道

をぜひぜひ早めに作っていただきたい。

私どもは、今日は〇〇さんも参っておりますけれども、4区という地域でございませう。渡の駅から大槻までの集落、それが4区という、行政改革で79集落が21行政区に再編がなされまして、以来このかた、常に道をどうにかしていただきたいということをお願い申し上げておりましたけれども、もう本当に何があっても一番大切なのは急病人を運びましても道がないと運べません。ヘリコプターで移動したらということもあります、病院で透析をしていらっしゃる人たちがいらっしゃいました。皆引き上げるのはヘリポートがありませんので、ホバリングをしていただきながら患者さんを避難所に送って、その避難所から病院にお運びするという手立てでここまで来ておりますので、とにかく常に地域に密着した地域目線でどうぞ行政の県知事さんもお見えでございますので、住民目線、田舎に住む人々の目線でこれからの復旧・復興、治水対策をよろしく願いたいと思います。

ちょっと説明不足でございましたけれども、時間が迫っておりますので、どうぞよろしく願います。

【発言者⑩】

こんにちは、〇〇です。

まず最初に、このような機会を設けていただきましてありがとうございます。被災後のご支援には本当に心から感謝しております。あと、ニュースのほうで知事が日々、連日、住民の声を聴いているお姿を見ております。

私は10月1日に県庁のほうに伺いまして、人吉の方たちと一緒に、ぜひ地元の声も聴いてほしい、被災した私たちの声を聴いてほしいというお願いに伺いました。そのときに担当者の方が、「もちろん知事もそのつもりでおりますので、今から計画しますので、待っててください」とおっしゃって、本当にこういう会を実現していただいたことに、本当にうれしく思っております、ぜひ多くの意見を聴いてもらって、復旧と復興にお力をいただきたいと思っております。

私は球磨村の渡、島田地区に住んでおりました、渡小学校のすぐ横に住んでおりました。私は生まれも育ちも球磨村ではなくて、球磨村に移住してきて、ちょうど今年で15年目になるころでした。来てからしばらくは茶屋地区というところに住んでおりました、さっき〇〇さんや〇〇さんが言われてたその地区に住んでおりました。茶屋地区では、球磨川が増水すると、内水が上がってくるので、皆さん避難の準備がとても早くて、私は知らなかったんですけれども、ここまで水が来たならこうするんだよということは地区の方が教えてくれました。

その後、8年前に今の渡小の横に移動したんですけれども、ここは平屋の

村営住宅をお借りしております、隣に村の指定の渡多目的集会所という避難所があったところです。

隣は小学校ですし、本当に住みやすいところで大好きな場所でした。子どもが「お母さん、私たちはどこに避難をすればいいの」と聞いたときに、「大丈夫、隣が避難所だから、ここにいれば安全だよ」と子どもに話していたんですが、もし万が一水が来たときには、隣のちょっと高い小川地区というところに逃げようとは思っていたんですが、今回そのまさかが起こってしまいました。

屋根まで完全に水が浸かって、この前、家が壊れる前に測ってみようと思って、屋根まで何mあるのかなと思ったら5m10cmありました。ほぼ屋根が見えなくなるところまで浸かってしまったんですけれども、今そういう水害を体験しまして、避難している私の一番の願いは「被災前の当たり前の安心して生活できる場所が欲しい」ということです。

球磨村が再生するためには、まずは何十年に一回にの洪水に対応できるダムの話の前に、365日球磨村の人たちが日々安心して暮らせる場所について先に検討していただいて、ぜひそこにお金を使っていただいて、皆が住めるようになってもらいたいなと思っています。

今回の災害で私が一番反省していることは、人間の勝手な思い込みです。さっき言いましたように「隣に避難所があるから大丈夫」とか「堤防ができているから大丈夫」「排水ポンプがあるんだから大丈夫だよ」という、思い込みをしておりました。

だけど今回の被災では、避難所があってもなくても、堤防があってもなくても、市房ダムが上流にありますけれども、ダムがあってもなくてもある程度大雨が降ると、大雨以外でも台風が来るとかわかっていれば、何が起こってもいのように準備をして備えておくということが、どこに住んでいても必要だったと、本当に反省しています。

うちの家は、6時ぐらいに玄関に水が入り始めて、9時半ぐらいには軒下3mまで水が来たんですけれども、その時間ぐらいだったと思うんですが、「今から1時間後に市房ダムが放流するかもしれないんだってよ」と周りの人が言っていたんです。でも、何にも放送もないですし、何も連絡もないまま、「本当なのかな大丈夫なのかな」と思いながら、本当にこういう状態になったときに、ダムの放流があるというのは怖いんだなというのをすごく実感しました。

そのときに首まで、首だけ出して避難している人とか、目の前には2階のベランダでしがみついて救助を待っている女の人もいたんですね。その人たちに皆で、「頑張れ」「もうすぐ助けが来るから頑張って」と、ずっと声をかけていたんですけれども、本当にそのときにもしダムの放流があったら、今回のこの被害はこれぐらいでは収まらなかったんじゃないかなと思います。

私は、11年前の知事の判断は間違っていなかったと、正しかったと、今回の被災を体験して思いました。私たちがこの災害で命を懸けて財産を失いながら感じたことは「どこまで水が来るのか」とか、「水が来たときには流れがどうなるのか」とか、「じゃあ、どこなら安全なのか」、これは、身をもって得た貴重なデータなので、ぜひもっともっと詳しく検証していただいて、先ほども言われましたけれども、これから先私たちよりも過酷な気象状況の中で、生きていかななくてはいけない私たちの子どもたち、子や孫たちのために、本当のことを伝えて、考えていただきたいなと思います。

「流域治水」という言葉を新聞で見ました。流域治水はやっぱり川と共に生きる流域の住民と一緒に考えていただけないかなと思います。球磨川の本流は、溜まっているものをすっきりさせて流す対策、支流は土石流から守る対策、それから最後に住民はもっと意識を持って川を見て備える対策、「自分は関係ない、大丈夫」じゃなくて、防災への本気の意識を持たなくてはいけないと思っています。

ぜひ、私たち生活の場がなければ何もできません。まずダムの話の前に、生活の再建のご検討をお願いします。

安心して生活できる場所、住む場所を心から望みます。以上です。

【発言者⑪】

球磨村の〇〇と申します。

まず今回の7月豪雨復旧へのご尽力、本当にありがとうございます。現在私自身も、みなし仮設を利用していますので、本当に感謝しております。ありがとうございます。

今回の豪雨で、千寿園の傍にある自宅が屋根まで浸水しました。そして、人吉市の実家も床上浸水、さらには一勝地にある職場まで浸水するという三重苦に見舞われました。

着の身着のまま避難したために、思い入れのある品々を全て失ってしまいましたが、それでも球磨川の傍で暮らしたいという思いは変わっていません。

他の被害にあわれた方々とお話していても、球磨川のことを悪くいう方はほとんどいません。「球磨川は宝」とおっしゃった知事という言葉は正しかったし、現在もその認識は何ら変わっていません。

この流域では、川の傍で暮らすことでその恩恵を受けつつ、たまに溢れる川とうまく付き合う術を受け継いできました。しかし、さまざまな治水対策が整備されていくなかで、川との距離が遠ざかり、川との関係性が薄れつつありました。そんな中で発生したのが今回の豪雨災害です。

あの日、目の前で濁流が軽々と堤防を越え、家を飲み込んでいきました。私

たちの油断もあったでしょうが、はるかに想像を超えた濁流を前にして、自然の力の前では人間は無力だということを改めて思い知らされました。そして、逃げ遅れた人々が、屋根の上などに避難している状況の中で知らされたのが、市房ダム緊急放流の知らせです。この一報には、既にぎりぎりの状況に追い込まれた私たちに、大きな怒りと絶望を生じさせました。

今回、この緊急放流は、たまたま全くの偶然で行われませんでした。地域住民にもともとあるダムへの不信感がさらに高まったことは否めません。

今回の記録的な豪雨は、地球温暖化による一つの現象であり、いつ、どこで、どのような規模で発生するか全く予想できません。ダムを作るために想定した雨量を軽々と上回る雨が降る場合もあるでしょう。一番役立ってほしいときに役立たないどころか、甚大な被害をもたらす大きな爆弾を抱えたような状態で、安心できる生活が再建できるとは思えません。

私たちが一番危惧しているのは、来年またこの流域で降るのではないかとことです。すぐにでも効果の出る対策を望みつつ、以下4点要望いたします。

1、国の検証結果は実際に被災した私たちの実感や多くの専門家の意見とも違っているようです。地球温暖化により、さらなる激甚化が予想される豪雨も考慮した上で、被災住民や異論のある専門家を参加させた形での再検証をお願いいたします。

2、検証の結果、提示される対策案について、その効果だけでなく、デメリット部分、費用対効果、対策の完了時期などを明示してください。

3、球磨川の沖鶴橋や相良橋が流出したことで、球磨川左岸の集落との行き来が非常に不便になっています。以前から要望のあった球磨村八久保と人吉市の大柿とを結ぶ道を、災害復興の一環として早急に作っていただけないでしょうか。できることなら国道219号のバックアップの意味も込めて、その大柿からの道を鶴口まで延伸し、県道15号線の未開通部分を完成させてほしい、と思っております。

4、この住民の皆様のご意見・ご提案をお聴きする会は、平日の開催であり、なかなか参加することが難しい状態です。私も、やっと休みを取って参加しました。さらに、次世代の球磨村を担う子どもたちの意見も聴くべきだと考えています。さらなる意見を取り上げる場を設けていただくようお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

【発言者⑫】

〇〇と申します。

私は今、ラフティング会社の〇〇という会社に勤めています。うちの会社も全壊で、屋根付近ぐらまで水が来て、当日4時前に会社のほうに行きまして、

車等を移動させて、自分たちも逃げようとしたときには先ほどの3区の〇〇さんも言われたと思うんですが、内排水、内側から水が溢れてきて、まず線路のほうから水が入ってきた状態でした、JR肥薩線のほうですね。

まず私が今ラフティングを19年やっているんですけど、この状態は初めてでした。

今まではそのポンプ小屋のところ、ポンプ車が出来る前は冠水はよくしてたんですけども、それが追い付かないほど内排水が溢れてたのはもう正直感じました。

それから小川のほうから逆流で入ってきたということでした。

その後、本来の球磨川の流れになってしまったというかたちではありました。

皆さんいろんなすごいことを言われているので、私はあまりそういうことは言えないんですけども、ラフティングを19年間やってきて、球磨川、あと川辺川のほうでもラフティングさせてもらってます。

私たちいつもラフティングを出るときには、水位計というのを見えています。水位計を見ながらチェックして行ってるんですけど、ここ数年間その水位計がめちゃくちゃ狂ってきていて、本来私たちが入って感じたときの水位より上がっているんですよ。

ということは、土砂がかなり溜まっているということです。かなり溜まっています。なのでできれば今もうダムありきの話になってるんですけど、それを言う前にまずはそういう河床掘削、今も大柿の横の土砂を見てもらうとわかんと思います。かなり溜まっています。あの状態が今も、川底にかなり溜まってきているので、本来私たち数年前までは、私が最初ラフティングでもまだペーペーだったころ、めちゃくちゃ足が深いところだったところが、今はもう歩ける状態です。ということは土砂が溜まっているということです。

なので、先ほど1.8m上がっていたというところが、河床掘削すれば問題ないんじゃないかなと私は思っているんですよ。ただ、やはり大変なことではあると思うんですけど、そういう河床掘削、もしくは今弱ったところの堤防をまず、すぐそういうところに手をかけてもらいたいなと思います。

今本当、ダムありきでいろんな首長さんがダムをということを言われていまずけれども、本当に今、〇〇さんが言われたとおり、来年もしかしたらまたそういう未曾有の洪水、今回起きたまではないかもしれませんが、何もしないと、そういう河床掘削とか堤防を嵩上げするとか、何もしなければまたこれ以上にすぐ、これぐらいの水が来なくても、ちょっとしたことで水は上がってくると思います。

なので至急そういうところに手をかけてもらいたいのと、あと今私たち〇〇はボランティア活動をもう3か月以上させてもらっていて、私は災害ごみ

をいろいろトラックに載せて、ごみ処理場に持って行っているんですけども、橋がないために相良橋の向こうの鵜口地区、川向こうの沖鶴橋の先にある地下地区、片道30分、40分、一勝地のほうから回ってごみを取りに来ています。なので仮橋を早く相良橋付近に作ってもらわないと、今度は公費解体が始まると、解体業者さんが一勝地から回ってまた戻ってこなきゃいけないという、かなりの労働になりますので、私が今それすごく感じてます。片道40分かけて、ごみを取りに行き、乗せてということをやっていますので、やっぱりあとは生活をされてる方たちが一勝地まで一旦戻って、この交通をまた人吉のほうに戻るといふかたちになりますので、そういうことをもう少し早めに生活の向上をしていただければなと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

【発言者⑬】

今回はありがとうございます。こちらに参加させていただいて、ちょっと今ご意見を伺わせてもらったんですけども、大変勉強になります。

私も〇〇というところでラフティングとキャリオニングとガイドのほうをしていますけれども、職場が球磨川と川辺川ということで、今話された〇〇さんは僕よりも10年くらい先輩ですので、僕は11年目なんですけれども、11年のなかでも十分、川の形というのはどうしても毎年変わってしまいますので、仕方がないことなのかなとは思いますが、先ほどいわれた土砂の話、土砂はどうしても溜まっていつているなという印象はとても感じます。

この水害があった後に、私たちラフティングの会社でボートを持っているので、西瀬橋の復旧のボーリングのお手伝いをさせてもらったことがあるんですけども、あのとき西瀬橋の橋脚の横にボートをつけて、そこからずっと掘っていったんですけども、最初は少し水が多い時期ではあったんですが、3mぐらいのところでもまず土砂がありまして、そこから下の岩盤までどんどん掘り進めていくんですけども、8mぐらいに達してもまだ岩盤につかないような状態だったんですね。つまり土砂だとは思いますが、どのぐらいの単位の年数でそれが溜まったのかというのは、ちょっと私にはわかりませんが、十分まだ、例えばダムありきで進める段階の前に、いろんなことをやるようなことはあるのではないかなと思います。

先ほど、どなたか言われた山の保水力の話とか、もちろん1年2年3年でそれが検証できるかどうかというのはわからないと思うんですけども、世界中の例えばデータを調べたりとかすると、もしかしたら可能ではあるかもしれないですね。

何よりも仕事が川ですので、一番懸念しているのは、川辺川ダムが出来てか

ら球磨川の水量が減るということ。そうするともちろん浅くなると、実は川は浅いほうが死亡事故は間違いなく多いです。深いほうがラフティングをしてとても安心してできるということと、何よりも自分たちはラフティングが人吉・球磨の大きな観光の柱だというふうに勝手に自負しておりますけれども、その若い人が楽しむようなものの魅力的なものが一つ失われる可能性があるなというふうに思います。

やはり、ここから先の50年、100年先のことを考えていって、ダムが今あって、150年後、100年後、ダムそんなにあれじゃんという話にならないかなというふうに思うんですけれども、作ってしまったらもう取り返しはつかないし、ダムありきで考えたらダムありきでこの治水対策を進めていかなくちやいけなくなるんじゃないかなと思うんですね。

例えば住民の人が5：5でダム反対・賛成だとしても、それでダムありきで進めていって、それって地域としてはどうなのかな、ぎくしゃくしてしまうんじゃないかなというふうに、勝手に思ってしまうんですけれども。

何よりも球磨村の住民の方が帰って来れるような、またここに住めるような状況を第一に考えていただきたいなというふうに私は思います。

あとこのへんの産業ですね。球磨村の産業って、とてもそんなにたくさんあるようなものじゃないと思うんですけれども、やはり川関係もしくは山、この2大柱だと思うんですよね。だから非常に慎重に考えていただければというふうに思っております。よろしく願います。以上です。

【発言者⑭】

〇〇です。私は今まで経験したことやそれぞれ聞いたことを発表したいと思います。

文章を書いてきましたけれども、話が前後するときもあるかもしれませんが、そのところはご了承ください。7月4日の豪雨これは私も6時ぐらいには起きて、道に上がっていました。それでも高くはないだろうという感じはありました。水がですね。洪水が。

河川の氾濫、これはいろいろ河川の氾濫によって、今までが道より下の場合は、話が変わりますけども昭和57年度の水かさに合わせた計画がされておったんです。

嵩上げしてから10年ぐらいまするが、その時は国土交通省が80年に1回は大きな水が出るというようなことを言われましたけど、今では10年ぐらいでやっとまだ道より下の洪水だと大したことはなかったんですね。

それもいろいろ計画されて1mぐらいは高くしようとしてもらおうか、国が一度したら二度としてくれないから1mくらい高くしてもらおうと私たちは思

ったんですけど、今度の水は少しは早いから、床上ぐらいまでじゃないかなというふうに考えておりました。

私はまだ道にきた時点では、道に水が来とったときがありましたので、それから舟を繋いだり、お婆さんの家に行ったりしていましたが、お婆さんが近くにいて、息子さんが半身不随で足が本当にありませんので、そこにおったんですけど、床上までは時間がある程度あったんですよ。床上に来てから水が早かったです。そこは私がそこにおったからよかったですよね。

だけどそこにおらんと、その人たちが二人おりましたら、どうなっていたかわからないと思いますが、自分は線路に立って、人間が線路に立って頭がかぶるような水かさでございました。今回の場合は。

道路からは3m70cmぐらいは上がったろうと思います。できればそういう大きな水の中には、ダムの問題がいろいろ報道されておりますが、水を溜めないダムであれば私も賛成します。

治水ですね。でもこの前のダムは水を溜めます。そして黒肥地の上ですかね、あそこは10mぐらいは高くありますが、そこで送水管を設けたり、そして田んぼに水の出口を作ったり、そういうことは私は見てきました。

そこで水を出すなら相当あそこに水を溜めないダメじゃないかと私は思います。

今回の氾濫については、ダムがあっても食い止めはできなかったろうと私は思います。水を溜めていれば、空っぽにしていれば問題ありません。そしてこの間の台風の時にもテレビで報道がありましたが、やっぱり市房ダムとか清願寺ダムとか早めに空けてあれば、今まで私は役場でも言ってきましたけれども、だいぶん言ってきました。何故早めにしないのかと言ってきましたけれども、これで今回は初めてだったと思いますが、試験的なのかどうか自分たちもわかりませんが、大した水じゃなかったんですけど、もう少しダムを作るならば、もう少し考えてほしいなと私は思います。

それと市房ダムを作られたときには、球磨村は必要ないと、水をかぶらないというようなことが言われております。

人吉まではサイレンが鳴りますが球磨村には鳴りません。なのでだいぶん区長会の時も言ってきましたけれども、今は無線時代でしょう。無線時代ですので、できればサイレンが鳴るようなシステムにしてほしいなと私は要望するところでございます。

私はダムを作るならば、水を溜めないダムならば賛成する。前は反対でした。どうぞよろしく願いいたします。

【発言者⑮】

〇〇と申します。今日はこのような場を作っていただきありがとうございます。
しました。

私も球磨村のラフティング会社に勤めさせていただいて、お手伝いというかたちでボランティア活動もさせていただいてたんですけれども、事務員だったので専門知識とかはないんですけれども、昔、私が都会のほうに住んでいて、川というものが、都会の川というのが予想と違っていたんですよ。自分が住んでいた町の球磨川というのが、すごいやっぱりきれいだったし、もちろん川辺川もそうですけれども、もうただただ川のきれいさ、今回被災に遭われた方にはちょっとなんとも言えないところもあるんですけど、このきれいな川がダムが作られたことによって、子どもが遊ぶ場所だったり、汚れとか臭いとかがあるというのはちょっと考えられないし、川があって私は帰って来たっていう部分もあります。

今、私は被災された方のお宅に物資を配る活動を個人でやっているんですけれども、ダムのお話をたまにすることがありまして、反対とか賛成とかっていうお話を決してこちらからすることはないんですけれども、誰一人として、被災されているんですけれども、作ってほしくないというお話を伺っています。

その中でも、何度も水害に遭われたお宅もありまして、その方は人吉のほうで商売もされているんですけれども、商売されてるところも被災に遭われているんですけれども、それでもこの川の恩恵、人吉が球磨川・川辺川からいただいている川の恩恵というのをこの一度の水害でこの先一生、ダムを作ることによってそれがなくなるというのは考えられないっていうご意見をよくいただいています。

私も昔、市内のほうで飲食店を少しお手伝いさせていただいてたんですけど、その時も観光のお客さんもありきの、人口が少ないから、やっぱり川の美しさ、自然の良さがあってここでゆっくり過ごせるといふ、このストレス社会もあるので、その良さを崩してほしくないなというのは正直思います。

あと、この会を予約する際に、ちょっと思ったんですけど、正直いろんな行きにくい方もいらっしゃると思うのと、被災されている方限定でされたということに少し疑問を持ちまして、治水、ダムについて思っている方はたくさんいらっしゃると思うんです。

こうやって意見をすることも私も専門知識がないので正直、怖かったんですけども、ちょっと勇気をもって予約させていただいたんですけども、お知らせも正直遅かったと思います。

これは誰に聞かれましたかって、予約担当の方に言われまして、ご友人の方かホームページの方かという二択で伺われました。そのぐらい多分、広告を公にされてないのかなとも思いました。

もう少しこういう対策をされるのであれば、地域の方の、作られるにしても作られないにしても、皆さんの意見をもう少し汲み上げてほしいなと思います。

あとは今被災状況の中にある皆さんの生活の復興をまず先にさせていただきたいということと、ちょっと過去の話にはなるんですけども、コロナの関係でボランティアを県内ボランティアに限定されたことによって、少し進行が遅れていると伺っています。クラブボランティアの方にも聞いていますけど、私は知識はないんですけども、人から聞いた話で申し訳ないんですけど、あまりにボランティアさんの人数自体がコロナの関係で少なすぎるから、復興は少し時間がかかると、範囲は狭いけど時間がかかるのを考慮して地元の人がしていかなくちゃいけないかもしれないよと言われました。

県内ボランティアの方もご尽力いただいたことはすごく感謝しています。コロナに関しては難しいところもあると思うんですけども、だからこそもう少し対策をしていただきたい。もうちょっと明確なことはわからないんですけども、カビが生えたおうちでテントで住まわれている方もまだいらっしゃいます。

で、咳きこまれたりしてます。体調を崩して鬱になられている方もいらっしゃいます。実際に話をしています。

そういう方々のケアを、耐えてばかりはいられないんですけども、正直その被災者さん本人たちが発信が難しいので、代弁させていただきました。

この治水対策も大事なかもしれないですけども、まずは人々の安心できる生活を、そのための治水対策なのかもしれないんですけども、今、目の前にいる方々の安心と安全をぜひ考えていただきたいと思います。

すみません。長くなりました。よろしく申し上げます。

【発言者⑯】

僕も2階建ての家の屋根が見えなくなるまで、1mぐらいのところで水に浸かりました。この中で思ったのは今度の洪水はどうしようもなかったんだろうとは思いました。まず2008年頃、蒲島知事が川辺川ダムを作らないと決断されたことは本当に正しかったと思います。

現在の治水のあり方は、2008年頃の考え方と違うとか、ダムによる治水を考える人が多くなったというようなことをニュースで何度か聞きました。

でもこれも今回の洪水での被害が川辺川ダムがあれば60%ぐらいの水害が防げたのではないかとされたために皆がダムのほうに動いたんじゃないかなというような感じも受けました。これが最初に僕が感じたことです。

こんな中でのダムの建設というのは僕らとしては納得できません。僕らは川のそばにいますけれどもダムが出来たからといって、球磨川の水が溢れないと

いうことは絶対にないと思います。

僕が小さいときに球磨川の水はもっと深かったです。今は本当にさっき誰かが言われましたけども、背が立たないぐらいあって、きれいな砂地だったんですよ。今はどういう砂、土かというともう本当にずぶずぶと入ってしまうような川底なんですよ。これはやっぱり水の流れが止まったからなんですよ。

ダムができればどうしても流れが緩くなってしまって、ドロドロの水がその場その場でどんどん溜まっていくんです。そういうことがあるから水害というのは増えるんじゃないかと思います。

こういう中で川辺川ダムまで作られると、これが益々ひどくなるんじゃないかな。ラフティングの人も言われましたけど、本当にそう思います。

今、大事なものは人吉なんかでも過疎化になりつつあるような中で、川と温泉ですよ。球磨というのはそういうところですね。

こういう中で皆生活されて頑張っておられるんですよ。水害というのはかけ離れないので、ダムを作ってなんていうことをいうのではなくて、自然の中で川と温泉を守っていきながら、地域を考えてもらわないといかんと思います。

あと球磨村というのは特に川幅が狭くなってますので、上のほうは平地が多いです。あさぎり町とか錦町なんかは、ただその辺の遊水地が出来るぐらいあれば水がこれほど溢れることはないと思うんですよ。

だからまず河岸の改良というのをもうちょっと考えてもらいたいというのが一番です。それと併せて先ほど皆が言われたんですけど、高台移転とか道路をもうちょっと高くする。それとか現在の場所に住みたいという人であれば、その地域をできるだけ地面をかき上げてその先に家を建ててもらおうとか、そういう対策をしてもらおうというのがダムを作ることよりも大事じゃないかなと思います。

昔、ダムが出来て堤防が出来るまで川幅はもっと広がったと思うんですよ。なんでかというといふと堤防が出来たことによって川が狭くなった。そのために流れが大水するときには一気に流れてしまう。

昔は堤防なんかなかったんで、その辺一帯が全部遊水地みたいにこの辺でもなっていたんです。

その辺もやはり堤防が出来たことによって、こういう流れが速くなった。それによってまた僕らの地区よりもっと下のほうでは大きな流れになって水かさも増えて、大きな被害を受けたと思うんですよ。

そういう意味では僕は全くダムは反対しているということです。

なんとか自然での治水を考えていただきたいと思います。以上です。

(以上)